



安全管理についてのおねがい

令和5年 4月の保育園だより

坂みみょう保育園 No.1

- ① 保育園下手に坂みみょう保育園と記載された10台分の駐車スペースがあります。行事等での駐車はできませんが送迎時に使用することができます。混雑の予想される時間帯（8時～9時半・16時～17時30分）に駐車場係として、担当職員がおりますので誘導に従ってください。なお、個人で駐車場を借りられている方以外の方は、駐車場の侵入は下手側から並んでお待ちください。10分間以上の駐車にならないようご協力をお願いいたします。
- ② 軽自動車、普通乗用車の駐車スペースがそれぞれありますが、接触等などないようにミラーの開閉などに気をつけてください。駐車場で立ち話は大変危険ですので避けてください。
- ③ 駐車場付近には、坂町巡回バスの停留所などもあります。子ども達が飛び出ししたりしないよう親子で手をつないで登降園しましょう。
- ④ 駐輪場は表門前です。手前から順に並べて駐輪してください。表門は緊急時に開閉することがありますので横付けは避けてください。子ども達を自転車に乗せる時には、必ずヘルメットを着用させてください。
- ⑤ 表門の開閉は、子ども達にはさせないようお願いいたします。大きいクラスになるとドアに飛びついたり、ノブにジャンプして自分で開閉しようとする姿を見かけます。保護者の皆様が安全確保のためワックを入りの時かけてドアの開閉を子ども達にさせないでください。
- ⑥ 登降時に子ども達が、リュックサックを背負ったまま園庭で遊ぶ姿を見かけることがあります。遊具などにリュックサックが絡まり、大変危険ですので登降園時は速やかに降園させてください。
- ⑦ 登降園時間のチェック用のICカードの利用は、故障の原因になることがありますので、子ども達にさせないようにご協力をお願いいたします。

感謝と思いやりのある自主的な行動の取れる子に

お子さまのご入園・ご進級おめでとうございます。これから始まる4月の園生活は、新入園児はもちろんのこと進級児にとっても、しばらくは緊張の毎日になるものと思われます。登園を嫌がるようでしたら、一言担任にその旨をお伝え下さい。

さて、みみょうグループの「みみょう」は、仏説阿弥陀経というお経の中の「微妙香潔」から引用したものです。阿弥陀経の中の一節に、池の中には車輪のような大きな蓮の花が咲いている。青いのもあれば、黄色や赤、白いのもある。みんな一本いっぽん違っているが、それらが一斉に咲く様子は何とも言えないほど（微妙）、芳しく良い香りがして清らか（香潔）であるとあります。みみょうの名には、子どもたち一人ひとりが持って生まれた個性を伸ばして欲しいという願いが込められています。

個性を伸ばすというみみょうグループの教育目標は、「感謝と思いやりのある、自主的な行動のとれる子に」です。感謝と思いやりは、生まれた時からしっかり可愛がられることと、1歳から2歳にかけて始まる反抗期を、自分の思いを周りに伝えようとする成長期として受けとめてもらうことで、自分は愛されている、認められているという自己の存在に対する自信（自己肯定感）と、まわりの大人への信頼感が出発点になります。周りの人への信頼感や関心や仲間づくりの出発点になります。また、感謝と思いやりは、生まれたときにしっかり可愛がられ、普通の愛情で満足できることが絶対条件になります。普通の愛情で満足できないと絶えず不満の種となり、わがままになったり、周りの子とうまく遊べない子となります。お忙しいことと思いますが、小さいお子さんの心の成長には、愛情と励ましが必要なことをご理解いただければと思います。

「非認知能力を刺激する教育に努めている園の子どもは、抑制機能や切替機能が身についている」これは東京大学の幼児教育研究機関の発表です。非認知能力とは「読む」「書く」「計算する」などの認知能力の裏にある「物事に対する興味や関心、自分を大切にしたり自分を良い方向に高めようとする意欲」のことで、子ども時代は「ごっこあそび」など子ども自身が自分で考え、仲間と一緒に工夫する活動の中で身につきます。

「質の高い教育・保育」というのは、子ども自身に考えたり工夫したり、判断できる経験をさせることです。

ご家庭でも、お子さんの言葉をしっかり聞いてあげたり、うなずいたり、励ましてあげてください。自分に対する自信があそびを深め、仲間と力を合わせて粘り強く遊ぶ経験が非認知能力を刺激して、卒園する頃には抑制機能と言って順番を待ったり我慢することや、切替機能と言って状況に合わせて気持ちを切り替える力や、友達と考えたり工夫しながら、「問題を見つけ解決する力」や「行動する力」、「やり抜く力」、「我慢する力」など、目には見えない「やる気」が生まれ、これが小学校以上に望まれる「学びに向かう力」へとつながってゆきます。

自分のことは自分で考える判断できるという、主体性を育てる一番大切な鍵は家庭にあります。ご両親が頭ごなしに「あしなさい。こうしなさい」と命令していたのでは、指示待ちの子どもになります。「できたら褒める」、失敗した時は「なぜ、失敗したのか」を話し合い、お子さんが自分で失敗した原因に気がつくようにしてあげることが、時間がかかっても主体性を育てることになります。

本年もよろしくお願いたします。

みみょうグループ前理事長

みみょう教育研究機構会長 松尾 龍一

保護者会さくらんぼ会総会

保育園は保護者の皆様との関係性の中で運営をさせて頂いておりますので、保護者会さくらんぼ会の役員選出や事業計画の承認などをする総会は年度初めにとっても大切な行事です。

令和4年度の保護者アンケートなどを基に、令和5年度の運営方針についても園長より説明をさせていただきますので、保護者の皆様のご参加をお願い致します。

なお、不参加の保護者の皆様は事前に配布いたします資料をご確認の上、委任状の提出をお願いいたします。

在園児の保育希望の方は4/20（木）までに担任までお知らせください。

【場所】 2F ホール

【日時】 4月22日（土）

運営方針説明 9時15分～9時45分

さくらんぼ会総会 9時45分～10時15分

（新役員紹介）役員以外の方は解散

新旧役員引き継ぎ 10時15分～11時頃終了

携帯電話アプリ

『きっずノート』に登録を！

緊急連絡や保育の様子、毎日の給食献立などを写真や動画でお知らせする携帯電話アプリの『きっずノート』の登録を新入児の保護者の皆様は早急（4/3まで）をお願いいたします。進級児の保護者の皆様は、保育園の方で新しいクラスごとに整理済ですので、登録の必要はありません。

ご入園・進級おめでとうございます

～保育の可能性と魅力・

『つながる保育』をつくりだす～

坂みみょう保育園

桜の花が満開の中、新入園児26名を迎え、0歳児1名、1歳児21名、2歳児21名、3歳児31名、4歳児36名、5歳児36名の（途中入園予定17名の予定）合計146名と職員32名で新年度をスタートします。

昨年度も微妙福祉会の保育理念『感謝と思いやりのある、自主的な行動のとれる子』の育成を図りながら、コロナとの共生を念頭に「楽しい！」をモットーに保育園の運営をして参りました。

コロナ禍での保育運営は、状況判断をしながら試行錯誤の連続でしたが、保護者の皆様のご理解、ご協力の下、「楽しい！」を共有しながら多くの行事を開催できたことに感謝申し上げます。

しかしながらコロナ禍での保育は、『つながり』というキーワードで象徴されるように、人と人との出会いやつながり寸断してしまうことも多かったように思います。

今年度は新型コロナウイルス感染症が、感染症法により5/8より第5類に引き下げられ、マスク着用も強制ではなくなります。地域の中にある保育園の役割を意識しながら、各方面の地域の皆様とのつながりを運営の柱として、その知恵や知識をお借りしながら、『つながる保育』の幅を広げたいと思っています。

微妙福祉会グループ園では、みみょうの目指す保育・教育として①保護者との連携の下、しっかりと可愛がられ、受け止めてもらうことで、普通の愛情で満足する子に。②0歳の時から驚きと感動、楽しさを大人に受け止めてもらうことで信頼と安心感を育む。③好きなことを選んであそぶ楽しさを集中力と仲間作りにつなげる。④段階を踏んだ生活習慣の確立の支援をする。（2歳までの生活習慣が3歳からの知的発達を

左右する。）⑤仲間と一緒に考えたり、工夫しながらあそびの輪を広げる中で（あそび込む）主体性や非認知能力、状況判断、思いやる気持ちなどを身に付けていく。

この目指す保育・教育は、いろいろな人との『つながり』の中で、保育実践をすることで、実現されるのではないかと考えます。つながりがほどけてしまったコロナ禍は、孤立感を多くの人々が味わったことだと思います。

4月は、新入、進級と環境が変わることで、子ども達は、不安になったり、泣きわめいたり、保育園への行きしぶりになったり、反対にテンションが高くなり疲れたり、体温が上がることも（精神的疲労から熱が出たり食欲不振になる。）よくある姿です。

そんな時、子育てに悩み、保護者の皆様も我が子にだけ注意が向き、どうにかしなくてはと、子育てを楽しめなくなってしまふこともあるかと思っています。

職員は、子育ての悩みを共有しながら、子ども達が新たな出会いやつながりの中で、変化し成長する姿を色々な形でお知らせしていきたいと思っています。

保護者の皆様は子ども達が、自分が自分であることを尊重されているという実感が持てるよう、指示命令などの言葉は避け、温かい言葉やスキンシップをしっかりとってあげてみましょう。子ども達を真ん中に、保護者の皆様と職員が情報共有をしながら、楽しい子育ての伴走者としてともに学び合うことが大切です。

地域に在る保育園は、人と人とがつながりをつくりだす、可能性と魅力を持っている場だという信念を持ち、色々な視野から『つながる保育』を合言葉に、新年度のスタートをきりたいと思っているところです。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

（園長 倉本弘子）